

サービスマ貿易と新たな成長の枠組み議論

日本貿易学会

日本貿易学会第58回全国大会が5月19〜20日、高千穂大学で「サービスマから見た貿易の成長の枠組み」をテーマとして開催された。大会では、個別研究報告のほか、1日目の午後には統一セッションとし

とコンテンツについて、「ブランド力がな...」
 いために「性能がいい割に安い」、「品質がいい割に安い」ことしかアピールできない」と評価し、そのうえで「『カッコいいから高い』と言えるような『マークダウンしない』姿勢を貫いたビジネスを展開するべき」と持論を述べた。また、ネット通販と

従来型小売店を比較し、「パソコン、スマホでできないサービスを外に売る会社」が最もカッコいいクルジャパン企業になるだろう」とまとめた。次いで、岩田伸人・青山学院大学教授が「地域統合とサービスマ貿易」について基調講演を行った。岩田氏は、2000年代以降急増した地域貿易協定(RTA)は従来の「グローバルな自由貿易体制」という理念を共有しているが、デジタル分野では共有されていないと述べた。岩田氏によればその傾向は電子商取引で著しく、自由化を進めるうえで必須とされる「デジタル三原則」もWTOでは合意が得られていないという。一方で、先進国間でのRTAでは含

まれていくことから、理念上ではRTAのほうがWTO体制より先行しているとした。

三人目に、飯島俊郎・外務省経済局審議官が「WTO体制下におけるサービスマ貿易の現状と展望」と題した基調講演を行った。飯島氏は、「日本のサービスマ輸出は主要国と比べ少ない」と分析、今後「今後どこかで再び議論できればと思ってい

る」と述べた。

基調講演の後、鈴木清巳・京都産業大学教授の司会のもと基調講演を行った3人によるパネル議論が行われ、サービスマ貿易の拡大を捉えた活動・研究の重要性が認識された。

個別研究報告では通商政策や国際ビジネス、貿易商など分野における先進的な研究が発表された。

て、テーマに沿って、三つの基調講演とパネル議論が行われた。最初に登壇した太田伸之・クルジャパン推進機構代表取締役社長は「クルジャパン長は「クルジャパン事業の課題」をテーマに基調講演を行った。太田氏は、日本の製品